

2011年1月24日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

2010年の国内携帯電話出荷台数は3,700万台に達する見通し

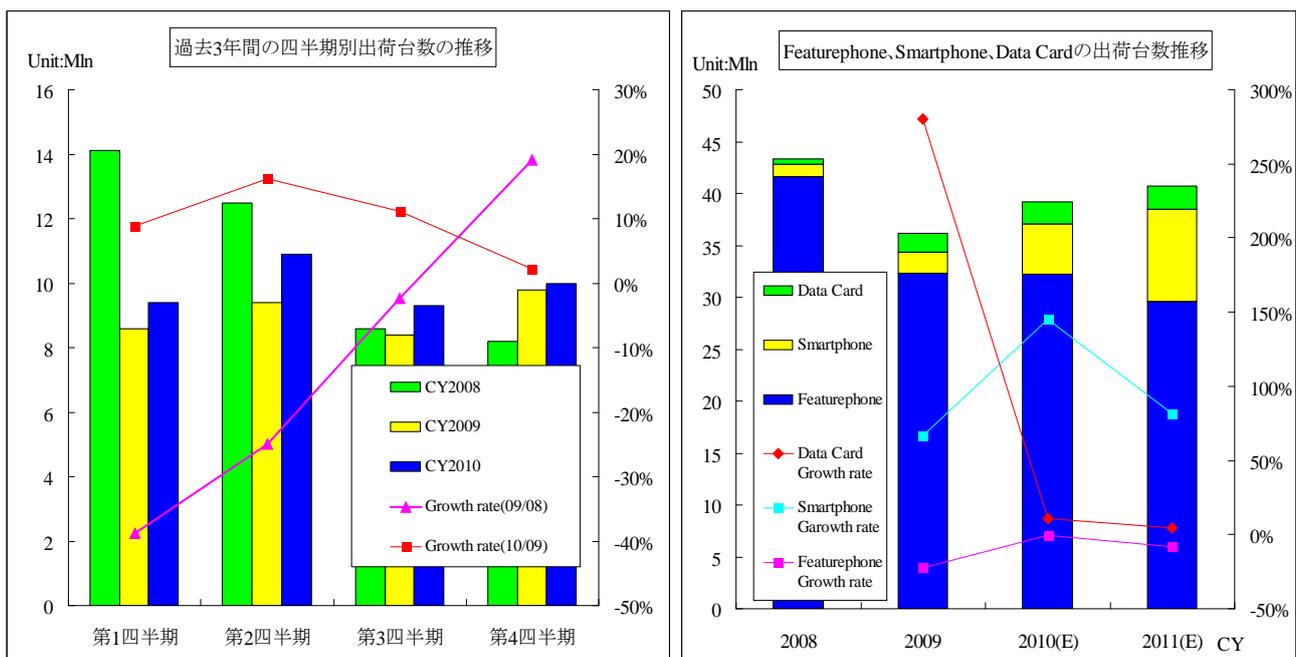
～ データカードを含めた総出荷台数は年間合計3,900万台を上回る見込み ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは国内市場向け携帯電話出荷台数の統計資料『月刊携帯電話機出荷統計情報』2010年11月号を2011年1月半ばに発刊し、その結果、2010年の年間総出荷台数がデータカードを含めて3,900万台を上回る見込みとなった（ポータブルWiFiルーター、デジタルフォトフレーム等は除く）。

2010年11月の出荷を終えた時点で、第1～第3の各四半期で出荷台数が前年実績を上回っており、第4四半期も12月にスマートフォンを初めとした冬モデル新製品の初回出荷も行なわれることから、最終的に前年実績を上回る見込みとなった。

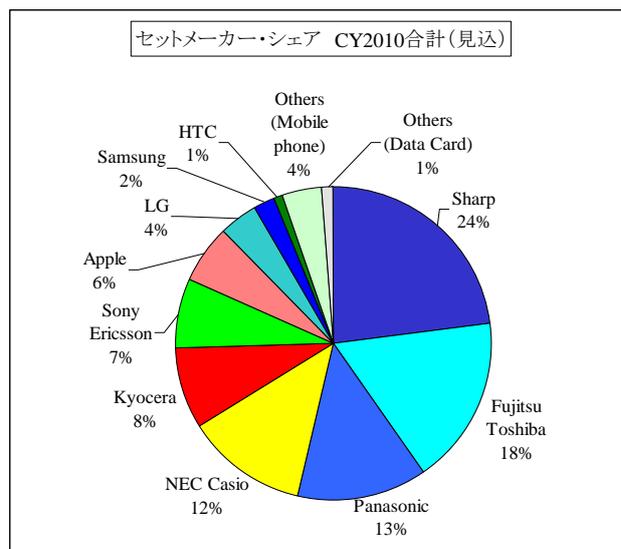
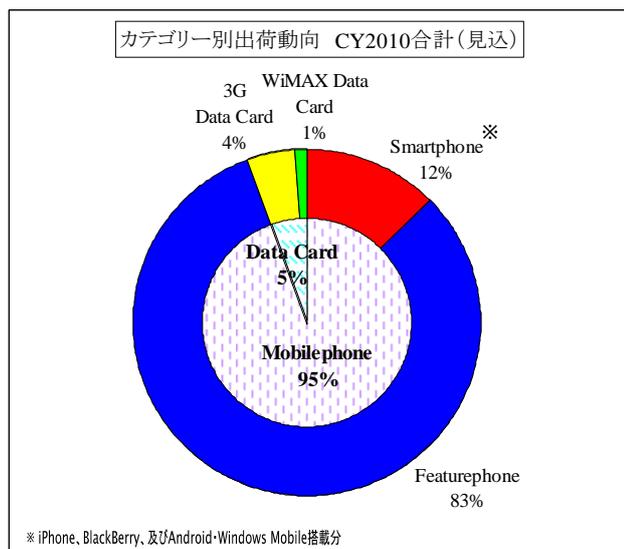
下半期（7～12月）と比べると上半期（1～6月）の方が前年比の伸張率は高く、下半期に入ると市場の勢いが減速した感があるが、これは昨年上半期には通信事業者各社が調達台数を抑えていたことと、下半期に入り調達台数を増やしたことが主な要因と見られる。また、2009年に大きく成長したデータカード市場は、WiMAXを含む通信事業者各社がポータブルWiFiルーターの販売を開始したことから、2010年は伸びが鈍化した。

2011年の携帯電話市場は、スマートフォン需要の高まりを受けて前年比でプラス成長が見込まれ、携帯電話機とデータカードを合わせた年間総出荷台数は4,000万台に達する見通しである。そのうちスマートフォンの年間出荷は900万台前後にのぼり、全体の20%以上を占めるものと見られる。



携帯電話事業者4社向けの出荷動向を見てみると、docomo向けが11月末時点で市場全体の46.3%を占めているが、2009年同時期と比べると約0.5ポイント落とし、年間合計でもシェアは落ち込むものと見られる。その一方でKDDIは、昨年大きく落ち込んだ反動から今年は大きくシェアを伸ばした。2009年11月末時点でシ

シェアは24.9%だったが、2010年は31.1%と躍進した。SoftbankはiPadやデジタルフォトフレーム等の販売に注力した結果、携帯電話やデータカードの調達台数の伸びは鈍り、市場シェアは大きく落ち込んだ（'09年11月末：25.1%→'10年11月末：20.5%）。また、EMOBILEは2010年に入りPocket WiFiの販売量が大半を占めた結果、同様に11月末までの同社向け出荷台数のシェアは3.4%（'09年）から2.0%（'10年）へと激減した。



製品の 카테고리別動向を見てみると、2010年の年間合計で携帯電話機が全体の95%を占め、データカードが5%を占めるものと見られる。また、市場全体の約85%がフィーチャーフォンと呼ばれる従来型の携帯電話機が占める。スマートフォンは従来からの人気製品「iPhone」シリーズに加え、「Xperia」などの新製品が発売されたことや、さらに第4四半期には「Galaxy S」や「IS03」といったヒットモデルの出荷が開始されたことで、年間合計で500万台前後にのぼり市場全体の12%超になる見通しである。

携帯電話機メーカー別の出荷動向を見てみると、2010年も市場シェア首位の座はSharpが占める見通しであり、同社の市場シェアは唯一20%を上回るものと見られる。2位には2010年10月に事業統合を果たしたFujitsu Toshiba Mobile Communications (=FTMC) がランクインするものと見られるが、これは統合以前の両ブランド製品の出荷台数を1月迄まで遡って加えた結果である。3位Panasonic Mobile Communications(=PMC)と4位NEC Casio Mobile Communications (=NCMC) は拮抗状態にある。ただし、NCMCは6月の事業統合以前の3ブランドの出荷台数を加算した上での市場シェアである。事業統合後に2位に躍進したFTMCとは対照的にNCMCは統合のシナジーが発揮されておらず、2011年以降に期待がもたれる。

海外メーカーの出荷動向を見てみると、年間出荷台数200万台を大きく上回るAppleが海外勢の中ではトップシェアに立ち、市場全体でも7位にランクインする見通しである。また、昨年携帯電話とデータカードを合わせて120万台近い出荷を遂げたLGは今年も好調を保ち、年間合計で150万台を上回る出荷が見込まれる。Samsungは10月より出荷を開始した「Galaxy S」が好調を継続しているが、年間の出荷台数は100万台には達せず、前年比でもマイナス成長に終わる見通しとなった。

2010年はdocomoがスマートフォン市場へ注力を強めたことに加えて、KDDIが同市場に本格参入したことで通信事業者間での競争が激化したが、2011年はPMCやNCMC、Kyoceraもスマートフォンを出荷する見通しであることから、メーカー間の競争の激化や海外メーカーの更なる躍進等が市場のキーワードになるものと見られる。また、メーカー再々編の可能性も依然として残されている。

【資料紹介】

『月刊携帯電話機出荷統計情報』は各携帯電話機メーカーの通信事業者向け出荷台数を、毎月各モデル別に調査し統計を取って資料として纏めております。また、四半期毎(3月号、6月号、9月号、12月号)に通信事業者別、セットメーカー別の短中期予測データを収録しております。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp) 武花勇一(takehana@t-s-r.co.jp)

TEL:03-3866-4505